

経済指標レポート 第200号

(社)関西経済連合会 経済グループ(担当:高島)

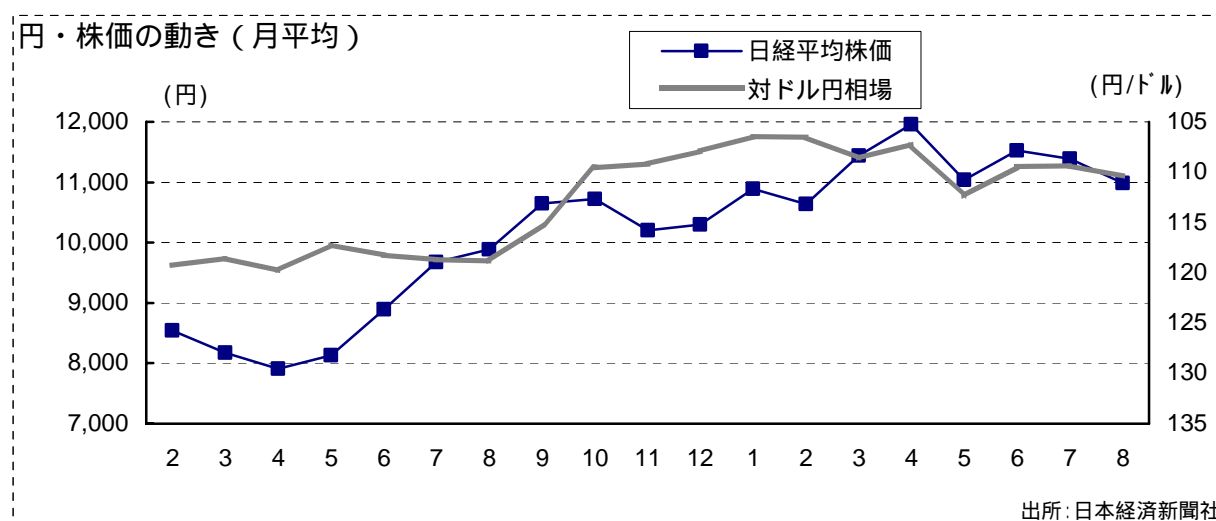
Tel : 06 - 6441 - 0102 Fax : 06 - 6443 - 5347

今年7月以降、原油価格が急速に上昇している。9月21日午前では、中東産ドバイ原油が1バレル35.60ドルとなり、今月10日以来の35ドル台に乗った。先月に引き続き9月の月例経済報告では、景気が堅調に回復する一方で先行きのリスク要因として、原油価格の動向が内外経済に与える影響に留意する必要があると示された。

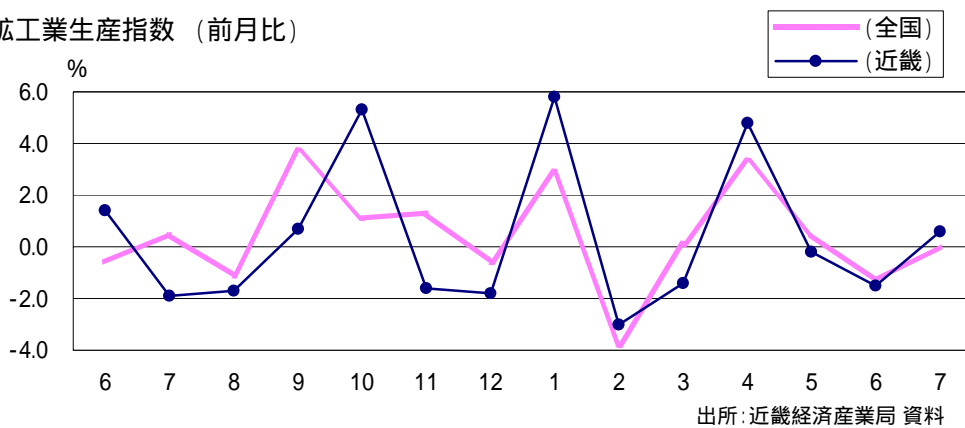
確かに、原油の輸入依存度が高いわが国への原油価格上昇の影響はあろうが、一次エネルギー供給における石油依存度が、1973年度に77%であったものが、2000年度には52%まで低下していることから、過去の石油危機と比較してその影響は大きくないと思われる。また、最近の消費者物価指数をみても、ゼロ前後で推移しており、現時点で国内経済への実際の影響は小さいといえる。エネルギー効率の面でも、産業構造改革を果たしたわが国の経済成長率への影響は、中国などと比較して相対的に小さい。

むしろ、原油価格上昇の影響は、中国およびASEANなどエネルギー需要が増大している東アジア地域の経済減速による輸出の鈍化を通じた影響が懸念される。デフレ傾向が続き価格値下げ圧力が強い中、原油高による原料価格が上昇しても、製品価格にそのコスト上昇分を転嫁することは難しい。この状況を乗りきるには、中国及びその他アジア諸国での売り上げが確実に確保され、利益を出すことができる戦略の構築が企業業績の分岐点となる。

< 各指標の動き >

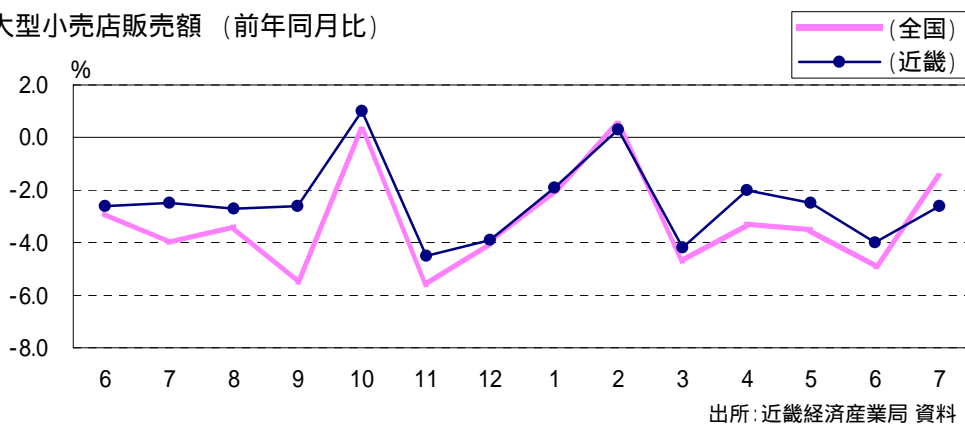


鉱工業生産指数（前月比）



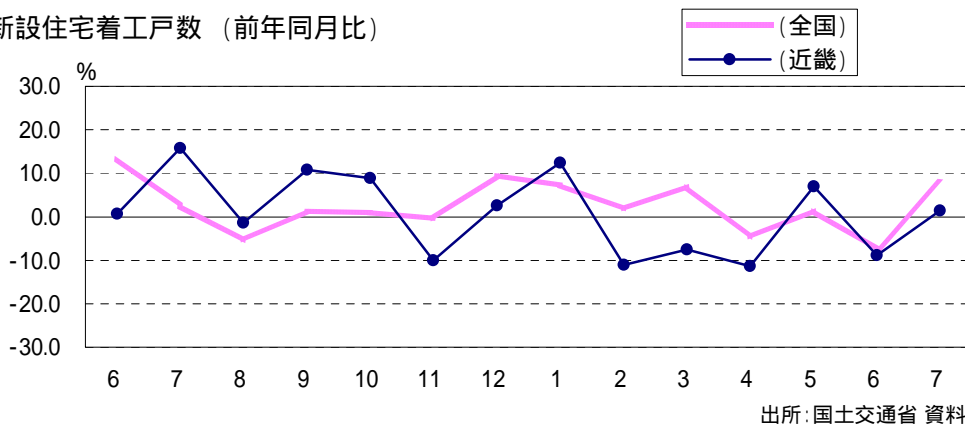
近畿は前月比 0.6% 増。3 か月ぶりにプラスに転じ、緩やかな上昇基調にある。業種別には電気機械工業、一般機械工業、鉄鋼業などが上昇に寄与した。

大型小売店販売額（前年同月比）



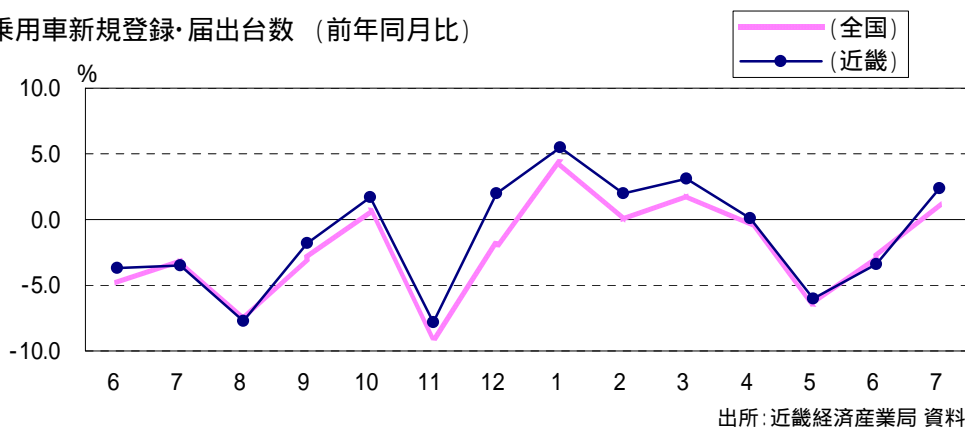
近畿は前年比 2.6% 減。百貨店は中元ギフトの早期受注による飲食料品の反動減や初秋ものが出遅れた衣料品の不調が影響しマイナス、スーパーも飲食料品などが振るわず 9 か月連続のマイナス。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



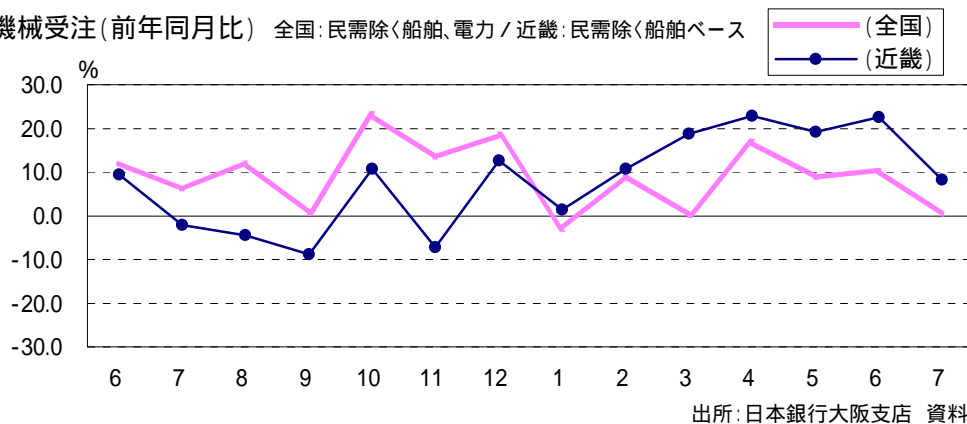
近畿は持家、分譲住宅がプラスとなり前年比 1.4% 増。分譲住宅のうち分譲マンションは同 5.5% 増で、都心部では秋口商戦に向け在庫を圧縮する動きがみられる。

乗用車新規登録・届出台数（前年同月比）



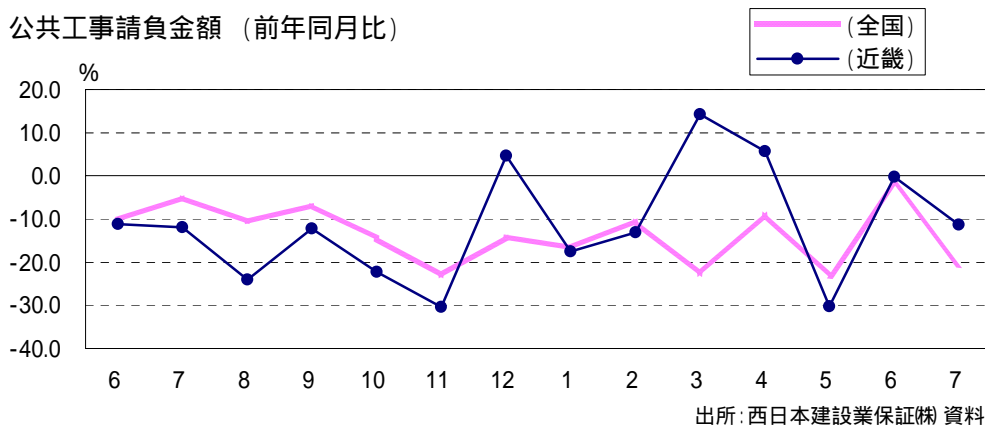
近畿は、前年比 2.4% 増と 3 か月ぶりのプラス。スモールカーの販売一巡により小型車が 14 か月連続で前年を下回ったが、普通車は同 12.6% 増と好調であった。

機械受注(前年同月比) 全国: 民需除く船舶、電力/近畿: 民需除く船舶ベース



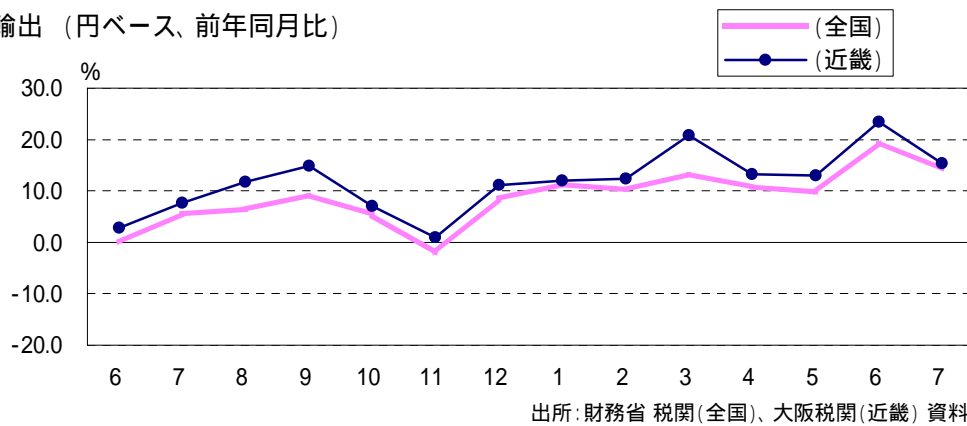
近畿は前年比 8.3% 増。全国は電気機械や半導体等の受注減の影響を受け同 0.3% 増にとどまったが、近畿でも 6 か月ぶりに前年比が 2 桁を割り込んだ。

公共工事請負金額(前年同月比)



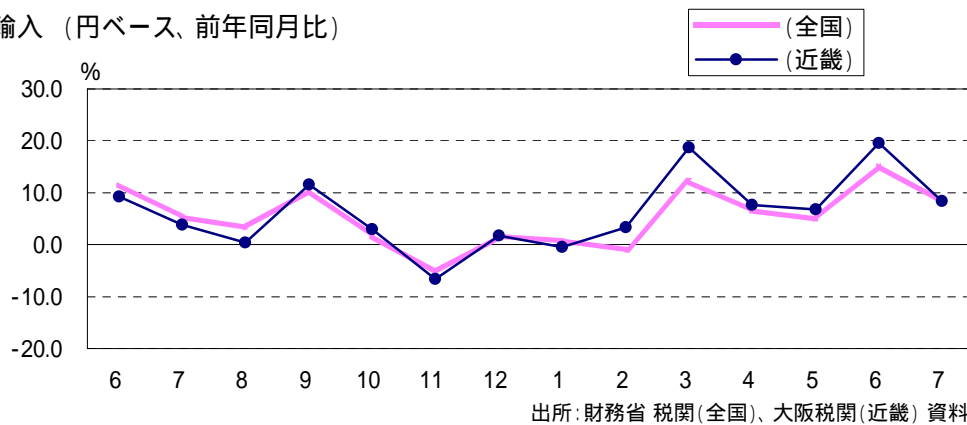
近畿は前年比 11.4% 減。発注者別では、「その他の公共的団体」が倍増したものの、「公団事業団等」で半減、「国・府県」で大幅減となった。

輸出(円ベース、前年同月比)



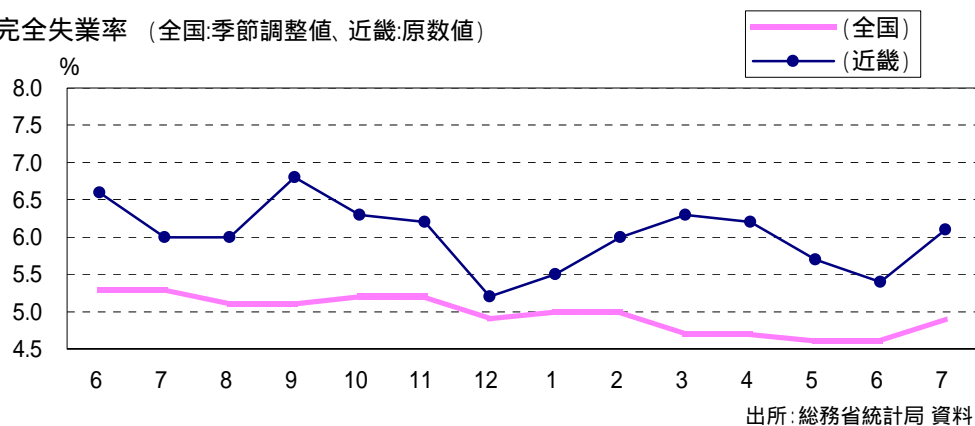
近畿は前年比 15.3% 増、28 か月連続のプラス。石油価格の高騰で原油等を中心に輸入が増えたが半導体等電子部品、科学光学機器などが過去最高額を記録し、全体で黒字幅の拡大につながった。

輸入(円ベース、前年同月比)



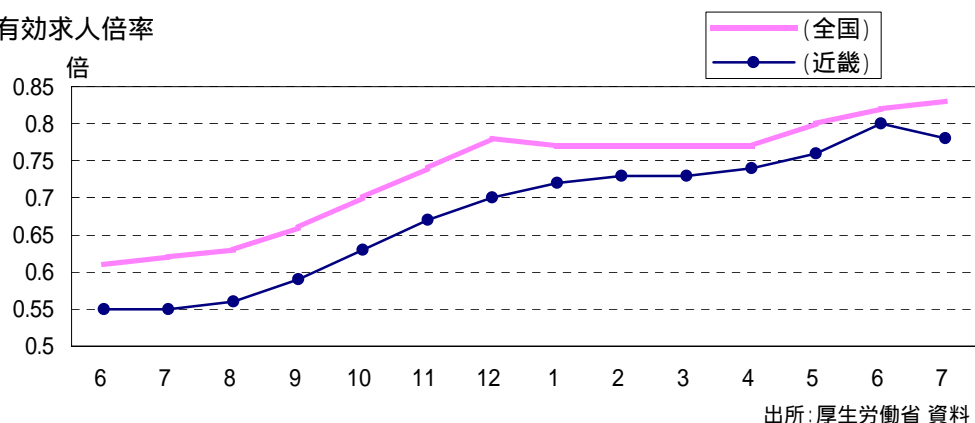
近畿は前年比 8.4% 増、6 か月連続のプラスとなり、石油価格上昇の影響がみられる。品目では、音響・映像機器が過去最高額を記録した。

完全失業率 (全国:季節調整値、近畿:原数値)



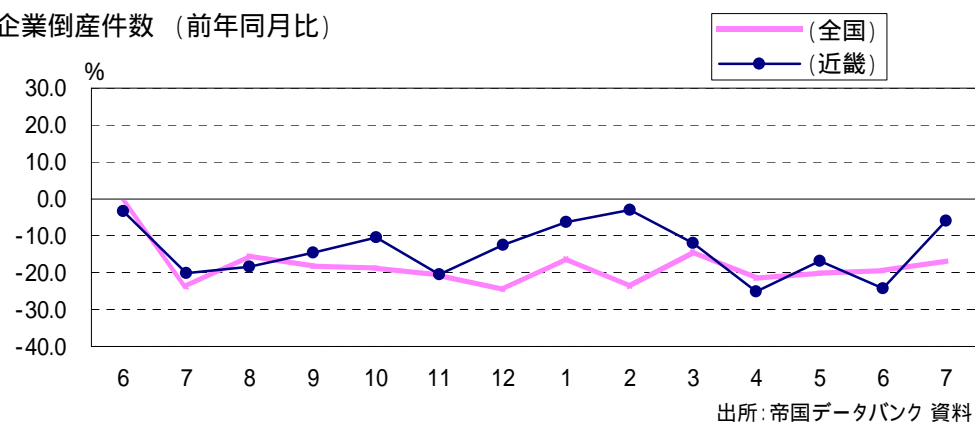
近畿は6.1%、前年比0.1ポイント上昇し、3か月ぶりに6%台に、全国も4.9%と6か月ぶりに悪化した。景気回復に伴う転職希望など自己都合による失業の増加が影響した。

有効求人倍率



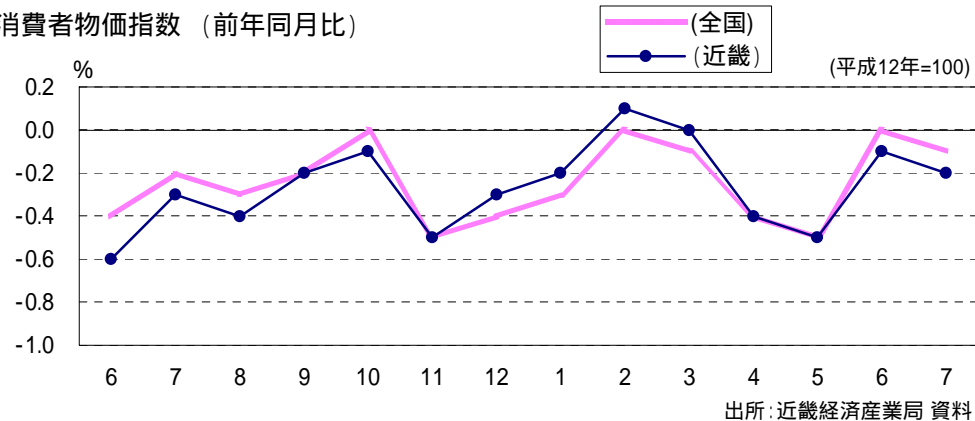
近畿は、前月比0.02ポイント低下の0.78倍となった。有効求人数の減少幅が、有効求職者数の減少幅を上回ったためとみられる。

企業倒産件数 (前年同月比)



近畿は303件、15か月連続の減少。企業規模別では、依然として零細企業が占める比率が高い。主要業種別では、構成比の最も高い建設が6か月連続で前年比を下回っている。

消費者物価指数 (前年同月比)



近畿は97.4。企業物価の上昇から市場ではデフレ脱却の観測も見受けられるが、消費者物価についてはなお緩やかなデフレが続いている。